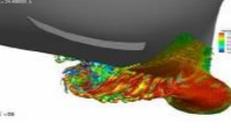


整理番号	発刊日	Title	タイトル訳	出典	所見等	情報提供者
2024 -1	2024/1/8	Fincantieri taps welding robots to build US Navy frigates faster	【米新FFG関連】 Fincantieri、米海軍フリゲート艦の迅速な建造に溶接ロボットを活用	Defense News 2024/1/8	 米海軍のConstellation級フリゲート建造に向けてFincantieriはMarinette Marineに溶接ロボットを大規模に導入するそうです。導入の背景には溶接工の確保が困難なこともあるようですが、同社ではオートメーション化によってフリゲートを年間2隻建造可能にすることが可能になるとしています。今後日本でも人口減少が進むとこうならざるを得ないでしょう。	佐々木司
2024 -2	2023/2/8	Computational fluid dynamics for naval hydrodynamics	【数値流体力学】 海軍流体力学の数値流体力学	2023/2/8	 なかなか読むのに難解な論文ですが、有用と思われる引用文献(日本の文献も含む。)が数多く提示されており、艦船建造にかかわる流体力学の技術的な問題解決に向けた手掛かりを授けてくれる論文のような気がして翻訳に取り組みました。以前に船体設計に導入した AI ツール「DeepMorpher (ディープモーパー)」に関する論文をご紹介しましたが、こうした AI ツールの精度向上や学習に、本論文に提示されている手法などを活用できるのではないかと思います。さらに、将来的にミサイル艇のような水中翼を持った USV が出現するかは分かりませんが、キャビテーションやベンチレーションといった課題も提示されております。	高木康之
2024 -3	2024/1/2	Why the Navy isn't shooting down Houthi drones with lasers yet	【ドローン対処関連】 何故、海軍はフーシー派のドローンを撃ち落とすのにレーザーを使わないのか	DEFENSE ONE 2024/1/2	 現有のシステムでは、ドローンを一撃で撃墜出来ず、その為、未だに高価なミサイルを使用しており、レーザーでドローンを落とすには、レーザーの長時間照射か大出力が要求され、そのシステムには、数億ドル必要であるとの事です。ネットでは色々な情報が提供されていますが、取得経費にいても注目する必要があるようです。我が国は、システムの改良は得意なはずなので、是非頑張ってコストダウンに励んでもらいたいものです。	川原梅三郎
2024 -4	2023/12/1	The War of 2026: American Sea Power Project Phase III	【米海軍戦略関連】 2026年戦争: アメリカン・シーパワー・プロジェクト・フェーズIII	Proceedings 2023/12/1	 プロシーディングス誌2023.12月号で、アメリカン・シーパワー・プロジェクトが立ち上げられています。	岩崎洋一
2024 -5	2023/12/1	The War of 2026: Phase III Scenario	【米海軍戦略関連】 2026年戦争: フェーズIIIにおけるシナリオ	Proceedings 2023/12/1	 アメリカン・シーパワー・プロジェクトの最初の論文として、米中戦争の第3段階シナリオです。1月13日に迫った台湾総統選の結果を受けたリアルな予想が4ページ目からシナリオ展開されています。	岩崎洋一
2024 -6	2024/1/11	First Constellation Frigate Delayed At Least a Year, Schedule Assessment 'Ongoing'	【米新FFG関連】 Constellationフリゲート1番艦は少なくとも1年遅れ、スケジュール評価は「継続中」	USNI News 2024/1/11	 米海軍の新型フリゲートConstellationの就役が当初より1年以上遅れる見込みです。原因は人員不足にあるということですが、フリゲートのみならず、米国では原潜やDDGについても軒並み建造が遅延気味です。国防上の所要で建造隻数と建造予定が決まっているので、新造艦の建造が遅れると米国の海上防衛について支障が出るのではないのでしょうか。	佐々木司
2024 -7	2024/1/12	US Navy reports successful tests of newest shipboard radar	【米新DDG関連】 米海軍が最新型艦載レーダーの試験成功を報告	Defense News 2024/1/12	 米海軍がArleigh Burke Flight IIIから搭載したSPY-6レーダーの海上試験に成功したという記事です。米海軍は今後SPY-6の使用実績を開発に反映させていくことになるでしょう。プログラム委員長は日系女性のOkano少将です。一方、日本のイージスシステム搭載艦には製造会社が異なり艦載実績のないSPY-7が搭載されます。就役時までには実用化できていればよいのですが。	佐々木司
2024 -8	2024/1/1	Surface Ship Repair Culture Needs A Refit	【米艦修理関連】 水上艦修理の文化は刷新を必要としている	Proceedings 2024/1/1	 米海軍の水上艦メンテナンスが上手くいっていない理由は、ここに書かれているような、正直な報告ができていない、歴史上のプライドを持っていない、責任の所在が不明確、ということにあるのでしょうか。日本では、2番目は別として、1,3番目は上手くいっているように思いますが、他山の石としてください。プロシーディングス誌1月号から。(11ページから興味深い読者コメントあり。)	岩崎洋一
2024 -9	2024/1/8	Is the Royal Navy in crisis?	【英海軍の各種課題】 英海軍は危機に瀕していますか?	NAVY LOOKOUT 2024/1/8	 何と表現してよいか、わからない記事です。NAVY LOOKOUT編集部が、英海軍にこれほど危機感を募らせた記事を執筆したことはなかったと思います。根底にある問題のほか、ウクライナ支援にて、弾薬や予算が払底しているのかもしれませんが。水上艦のみならず、潜水艦でも運用・建造・維持整備に課題が多いうえ、人材・人事の問題も存在している模様です。	本山泰之

整理番号	発刊日	Title	タイトル訳	出典	所見等	情報提供者
2024 -10	2023/12/1	It All Comes Down to Sea Control	【台湾情勢関連】 「すべては制海権にかかっている」	Proceedings 2023/12/1	 令和6年1月13日に実施された台湾総統選挙において、次期総統に与党民進党・頼清徳氏が就任することになりました。アメリカなどとの連携を強めて中国を抑えようとする現職蔡英文総統の路線を継承するものです。「シナリオ」(未入手)では人民解放軍が台湾東部に展開する米第7艦隊打撃部隊を攻撃し、本作戰に勝利するために、中国海軍の制海権を東から西へ後退させる各種方策が述べられています。「さみだれ」がロナルド・レーガンと並走する記事が取って付けたように入り込み、海上自衛隊が関与することへの期待を匂わせています。	工藤悟
2024 -11	2024/1/1	HHI Completes Basic Design Of The Korean Next Gen Destroyer KDDX	【韓国KDDX情報】 HHIは次世代駆逐艦KDDXの基本設計を完了	Naval News 2024/1/1	 韓国KDDXの基本設計が完了したようです。しかし、スケールモデルはそうでもありませんが、イラストはどこかの国の艦と非常に似ていると思います。如何でしょうか。以前、潜水艦救難艦でも同じような絵を見たことがあるのですが。	川原梅三郎
2024 -12	2024/1/19	In first, UK test fires \$13-per-strike DragonFire laser weapon against 'aerial targets'	【英レーザー兵器実験】 英国、1撃あたり13ドルのレーザー兵器DragonFireを“空中標的”に試験	Breaking Defense 2024/1/19	 英国で高出力レーザーの開発が進められており、空中を飛行する目標の撃墜に成功したようです。ただし、艦載するとなると大電力、精密誘導技術が必要になるので陸上での試験のように簡単にはいかないでしょう。それでもドローン群を高価なミサイルで迎撃するのは費用対効果面で大きな問題があるため、米国も含めレーザー開発には本腰を入れているようです。	佐々木司
2024 -13	2024/1/22	Royal Navy minehunters collide in Bahrain	【英艦の衝突】 英国海軍掃海艇がバーレーンで衝突	Navy Lookout 2024/1/22	 1月19日、バーレーンの港で出港直後の英海軍掃海艇Chiddingfoldが掃海艇Bangorに衝突し、Bangorの外板に大きな破口が生じました。事故の原因は調査中ですが、記事によると原因は点検時に制御システムの配線を間違えて交換したことで、前進の機械操作をしたにもかかわらずエンジンが後進となり衝突に至ったようです。修理後の確認運転はしなかったのでしょうか。	佐々木司
2024 -14	2024/1/18	Misplaced Flashlight Sucked into F-35 Engine Caused \$4 Million in Damage	【F-35エンジン損傷事案】 置き忘れた懐中電灯がF-35のエンジンに吸い込まれ、400万ドルの損害に	Air & Space Forces Magazine 2024/1/18	 米空軍でF-35の整備作業中に空気取り入れ口に置き忘れた懐中電灯がエンジン起動後に吸い込まれてエンジンを損傷し、修理費が約400万ドル(約6億円)必要となる事案がありました。どこかの国でも軍艦の減速装置に懐中電灯を落とし、減速装置のギアが破壊される事案がありました。この時は確か出港したくない乗員が故意に行った事案だったと記憶しています。	佐々木司
2024 -15	2023/12/1	Developments in Lithium-ion Batteries and AIP Systems for Submarines	【LIB及びAIP関連】 潜水艦用リチウムイオン電池とAIPシステムの開発	European Security & Defence 2023/12/1	 海自保有の潜水艦は「在来型(通常動力型)」として水中動力源を鉛蓄電池によってきましたが、より長時間、大気に依存しない動力源(AIP)としてそうりゅう型からスターリング機関発電システムを搭載しました。更には世界で初めてリチウムイオン電池を搭載し、充電時間短縮のために新たに開発した主機も搭載しましたが、諸外国においても各種AIP技術の選択肢が広がっている状況です。いずれにしても放電した電池の充電は必須であり、燃料、液体酸素、水素など無尽蔵に艦内に貯蔵できず、EV車、ハイブリッド車やFC車と同様に定期的に充電(シュノーケル)と各種燃料補給(岸壁帰投)は必要です。また、様々な関連装置や陸上インフラも必要となり実艦運用まで時間を要するでしょう。	工藤悟
2024 -16	2024/1/30	Pentagon Puts Out Call for Swarming Attack Drones That Could Blunt a Taiwan Invasion	【米無人機関連】 米国防総省は台湾侵攻を鈍らせるスウォーム攻撃ドローンの募集を開始	USNI News 2024/1/30	 今すぐ手に入る自律でリーサルで大量生産可能なドローンを台湾有事で使おうという米国防総省の話です。ウクライナの戦い方を参考に、また最近の台湾有事シミュレーションの戦訓から、正しい考えのようにも思えますが、(古い人間から見れば)何かおかしな方向に進んでいるような気もします…。	岩崎洋一
2024 -17	2024/1/31	Two U.S. Aircraft Carriers Drill with Japanese Big Deck in Western Pacific Exercise	【日米艦船動向】 米空母2隻が西太平洋演習で日本のDDHと訓練	USNI News 2024/1/31	 今日(木曜日)までの予定で日米空母群の演習がフィリピン海で行われたという記事です。4ページ以降に、今年後半に予定されているDDH「かが」米国派遣の話が載っています(下線は訳者)。	岩崎洋一
2024 -18	2024/2/1	Unpacking Merchant Shipping	【商業海運関連】 商業海運を解説する	Proceedings 2024/2/1	 ブローディングス誌2月号から、商業海運の解説です。文中で、チョークポイントに触れられていますが、昨今はイエメン沖(バブ・エル・マンデブ海峡)が重要なチョークポイントになっています。	岩崎洋一
2024 -19	2024/2/6	Japan-based Destroyer CO Removed from Command	【米艦艦長人事】 在日米海軍の駆逐艦艦長が解任	USNI News 2024/2/6	 「ハワード」艦長が解任されたというニュースです。理由ははっきりしません。パワハラかセクハラか…?最近の自衛隊でも、処分も含め何かもやもやします。3ページからの読者コメントが秀逸です。	岩崎洋一

整理番号	発刊日	Title	タイトル訳	出典	所見等	情報提供者
2024 -20	2024/2/9	Army Activates New Watercraft Formation in Japan	【米陸軍船舶部隊関連】 米陸軍は日本で新たな船舶部隊を最編成する	USNI News 2024/2/9	 米陸軍が船舶部隊を横浜ノースドックに編成します。自衛隊の海上輸送群の動きと連動して、南西諸島防衛に重心を置いたものと考えられます。ところで、海上輸送群のLCUやLSVの造修整備は陸海のどちらがするのでしょうか？ 船舶安全法と造修訓令の精神(オーナー&サーバイヤー)をしっかりと理解した人たちにやって欲しいものです。	岩崎洋一
2024 -21	2024/2/6	San Antonio Class Looks Very Different After Shedding Its Stealthy Masts	【ステルスマスト関連】 ステルスマストを脱ぎ捨てたSan Antonio級は大きく変わった	The War Zone 2024/2/6	 経費削減のためマスト形状が変更されたという記事です。純粋な戦闘艦船ではないので、ステルス性は要求されないのか、本当に経費だけの問題なのか、興味があります。	川原梅三郎
2024 -22	2023/11/30	Displays: Digital Visualisation of the Battlefield Tamir Eshel	【装備品関連】 「ディスプレイ:戦場のデジタル視覚化」	European Security & Defence 2023/11/30	 ディスプレイは、ヒューマン・マシン・インターフェースとしてほぼすべてのシステムにおいて重要な役割を担っていることは誰も認識されていることでしょう。しかしながら、その具体的な機能・性能については、各システムに組み込まれているため関係者以外触れることは困難であり、実態がよく分かりません。人間の処理能力を補完するために様々な機能が付加されてきたものの、これからはAIの活用も不可欠となります。	工藤悟
2024 -23	2024/2/14	How Magura V5 Drones Destroyed Caesar Kunikov: Detailed Video Analysis and Mayhem on the russian Landing Ship	【無人機関連】 Magura V5ドローンはいかにしてCaesar Kunikovを破壊したか: 詳細なビデオ分析とロシア軍揚陸艦の騒乱	Defense Express 2024/2/14	 ウクライナが自爆型USVの大群攻撃によりまたロシアの揚陸艦を撃沈しました。4隻のドローンを用いて3隻が揚陸艦に突入し、4隻目が撃沈に至るまでを撮影、司令部に電送して戦果を確認する手際の良さです。一方のロシアはUSVの突入に際して兵士が上甲板から小銃を発射して対抗しましたが全く効果がありませんでした。対USVの有効対策は取られていないようです。	佐々木司
2024 -24	2024/2/14	Navy Will Stand Up Lethal Drone Unit Later this Year, First Replicator USVs Picked	【米無人機関連】 米海軍は今年後半に攻撃用ドローン部隊を立ち上げ、初のレプリケーターUSVを選定する	USNI News 2024/2/14	 米海軍もウクライナの戦況を見て、殺傷型の小型USV戦隊を立ち上げるようです。第1無人水上戦隊(USVDIV-1)は既に実験用に創設されていて、中型・大型USVで構成されたやや保守的な部隊ですが、この第2無人水上戦隊(USVDIV-2)は、各艇がそれぞれ自爆殺傷兵器としてスウォーム(群れ)で作戦するもののように思われます。具体的な内容は、パパーロ大将が言うように、わざと秘密のベールに包んでいます。文中で米国は、「国防イノベーション・ユニット(DIU)」だの「その他の取引権限(OTA)」などの特別な契約手法を使って今すぐ入手できるものを、企業に手当たり次第に応募させるようです。	岩崎洋一
2024 -25	2024/2/5	Royal Navy Spends Big on AI-Driven Predictive Maintenance	【英海軍整備方針関連】 英海軍はAIを活用した予知保全に巨費を投じる	THE MARITIME EXECUTIVE 2024/2/5	 AI(人工知能)を活用方法の詳細に関する記述はありませんが、英海軍は艦隊の維持整備について、大きな舵を切ったようです。契約は、搭載装備品のみの範囲であり、艦船全体に及ぶものではない模様ですが、詳細把握にはもう少し調査が必要です。また、AIに分析させる「ビッグデータ」は、誰が、如何にして取得し、供与しているのかも、非常に興味深い点です。継続して調査していこうと思います。	本山泰之
2024 -26	2024/1/27	No Diploma? No Problem! Navy Again Lowers Requirements as it Struggles to Meet Recruitment Goals	【米海軍募集事情】 卒業証書がない? ノープロblem! 海軍は新兵のリクルート目標達成に苦戦する中で、またも採用条件を引き下げる	Military News 2024/1/27	 いつも技術とは関係のない話ですみません…。米海軍は高卒の資格がない者でも入隊を許可する方針を発表しました。入れ墨規則といい、なりふり構わず人集めをしています。	岩崎洋一
2024 -27	2024/2/10	Rapid response - HMS Prince of Wales sails to replace her sister ship at short notice	【英空母動向】 迅速な対応 - HMS プリンス・オブ・ウェールズは急遽姉妹艦として交代して出港します	NAVY LOOLOUT 2024/2/10	 昨年5月、プリンス・オブ・ウェールズの右軸損傷について、ご紹介しましたが、クイーン・エリザベスでも類似事象が発生した模様です。損傷程度は軽微なようですが、大型艦にしては短い軸系との情報がある中、建造時・検査時の処置について、再度疑問が湧いてきます。ともあれ、クイーン・エリザベスが担っていた任務・装備を、僅か一週間程度で、プリンス・オブ・ウェールズに移すことが行われました。肝心の航空機運用に関する練度育成はこれからのようですが、同型艦があることの意義が改めて認識させられます。	本山泰之
2024 -28	2024/2/19	Houthi Lethal Underwater Drones Adds New Threat to Red Sea	【水中ドローンの脅威】 フーシ派の水中ドローンは紅海に新たな脅威をもたらす	USNI News 2024/2/19	 自爆水上ドローンは気象海象により作戦が制限されると思いますが、自爆水中ドローンは、自律性やロイタリング機能、音響シグネチャー認識機能などを付加すれば、防御側にとっては脅威になりそうです。	岩崎洋一

整理番号	発刊日	Title	タイトル訳	出典	所見等	情報提供者
2024 -29	2024/2/15	SECNAV Del Toro Delivers Keynote Address at WEST 2024	【米海軍長官講演内容】 デル・トロ海軍長官がWEST2024で基調講演	United States Navy.mil 2024/2/15	 先日のWEST2024で、デル・トロ海軍長官が基調講演をしています(下線は訳者)。産業界に対して、かなり辛口の要求をしています(8~10ページ)。長いですが、ざっと流して読めば、米海軍を取り巻く様々な案件について理解でき、洞察力を磨けます。	岩崎洋一
2024 -30	2024/2/25	HD HHI To Develop Submarines For The Export Market With Babcock	【韓・英企業潜水艦共同開発】 HD HHI、バブコックと輸出市場向け潜水艦開発	Naval News Staff 2024/2/25	 記事を読むと、素晴らしい事ばかり書かれています。本記事を読む人は、正確な判断力で記事を咀嚼するのでしょうか、知らない人が読んだら、受け止め方はどうでしょうか。指を咥えて待っているだけではだめで、こちらから打って出ないと後塵を拝する事になります。	川原梅三郎
2024 -31	2024/2/23	Navy Awards \$1.2B Repair Contract for Attack Sub USS Boise More Than 7 Years Late	【米潜水艦修理再開】 海軍は7年以上遅れていた原潜「ボイシ」の修理契約を12億ドルで契約	USNI News 2024/2/23	 長い間放置されていた原潜「ボイシ」が、やっと修理を再開することになったという記事です。米海軍の攻撃型原潜の修理バックログ(工事遅れ)は、2019年度、1隻平均1,500~1,600日ということです。	岩崎洋一
2024 -32	2024/2/21	A credible deterrent? Trident missile fails during test launch from HMS Vanguard	【英原潜ミサイル試験失敗】 信頼できる抑止力？トライデント・ミサイル、HMSヴァンガードからの試験発射失敗	NAVY LOOLOUT 2024/2/21	 先日、英戦略原潜が、トライデント・ミサイルの試験発射に失敗したとの報道がありました。しかも2回連続との見出しもあり、英国の抑止力の信頼性を揺るがす問題となっています。詳細は調査中だと思いますが、ことがことであるため、ほぼ真相は闇の中と言ってよいでしょう。しかし、本稿には、かなり突っ込んだ情報が含まれています。	本山泰之